

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503882		
法人名	株式会社 ケアプロダクツ		
事業所名	グループホーム あじさい藤野		
所在地	札幌市南区藤野3条4丁目15-60		
自己評価作成日	平成23年3月16日	評価結果市町村受理日	平成23年4月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所理念である「幸輪」: 幸せの輪を広げ楽しく有意義な時間を共に末永く過ごせるよう支援するを念頭に入居者へのサービス提供を心がけています。また、認知症を正しく理解し、残存機能を最大限活かせるよう環境作りに努め、より良いサービス提供につながるように社会的責任を認識し、介護サービスに携わる者として研鑽かつ健全な運営に努めます。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170503882&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年3月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は職員の意向によく耳を傾け、配慮するとともに厳正で的確な指導をすることによって、職員の信頼も厚く、明るく和やかな雰囲気が見られ、利用者の安心してつづらだ表情にもそれが伺われる。文書類は正確で詳細な記録が行われ、よく整備されて、適切な介護の基本が整えられている。様々なレクリエーション活動、趣味活動を活発に取り入れ、利用者が部屋にこもらず居間に出て来てみんなと一緒に楽しく過ごせるような時間を積極的に作っている。散歩や買い物などによる外出の機会を多く作り、家事にも可能な限りの参加を求めて、利用者の能力を最大限発揮できるような努力をしている。職員の教育にも気を配り、日常業務や会議の中できめ細かに指導するとともに、毎月内部研修会を実施して幅広い分野で知識が蓄積されるよう力を入れている。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念等を毎朝の申し送り時に音読し、事業所の社会的立場を理解し健全な運用に努めるよう認識を高め、実践に繋がるよう努力している。	幸せの輪を広げよう、という趣旨で、「幸輪」という表題の下に、尊厳の保持、個性の尊重、普通の生活を守るという理念を掲げ、玄関や事務室に掲示するとともに、職員は常時携帯し、毎朝申し送りで音読することで認知の徹底を図り、日常業務の基本を再認識する手立てとして活かされている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた内容を盛り込むことの検討を期待したい。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、双方の行事への参加や交流会等を実施、介護に関する相談への対応、こども119番の家でもあり、地域に根付いた事業所でありたいと努めている。	町内会に加入して敬老会、夏祭りなどの行事に参加する一方、ホームの行事には町内会から踊りや音楽、演劇などの出し物が提供され、また、町内会がホームとの交流会を開催してくれるなど、活発な交流の中で友好的な関係が築かれている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の福祉推進委員会からの相談や入居相談などがあつた際には、当事業所で対処が難しくとも、情報の提供や他の専門機関の紹介を行っている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業所の入居者・職員情報の報告、事故報告、近況報告をし、多様な意見を提供して頂けており、可能な限りサービスに反映できるよう対処し、結果も報告するよう努めている。	以前は途絶えがちであった運営推進会議も今年度は2ヶ月に1回確実に開かれるようになり、大幅な進展が見られている。町内会からは4人のメンバーが参加し、防災対策や事故への対応についてなど活発な発言が提起されている。	家族の参加が少ないのは、身寄りがない、家族関係が希薄など、それなりの困難な事情を察するが、家族の参加を増やすためのもう一段の工夫を期待したい。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市へ密に連絡を取り協力関係は特に無いが、区の保護課(生活保護者が多い為)とは、サービスに係ることで相談や協力していただく状況はある。	市本庁、区役所介護保険課との交流は必要な事務書類の届け出などの範囲にとどまっているが、生活保護者が多いため保護課との協力関係は緊密に保たれている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間、ユニットの内戸の施錠は行っているが、グループホーム内で「抑制」や「拘束」に値する状況は作らず、内部研修に取り上げ「してはいけない」と職員それぞれが認識・注意し、サービス提供に取り組んでいる。	内部研修でテーマに取り上げ、職員の認識の徹底を図っている。拘束に結び付くような保護の必要が生じた時は徹底的な見守りで対応し、あくまでも拘束は回避している。玄関の日中の施錠はしていない。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で取り上げ、身体的・精神的虐待を見逃ごさないようにすると共に、言葉の虐待に注意を払い防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度の内部研修に取り入れてはいない。入居者に成年後見制度を活用されている方がおり、後見人補佐の方が運営推進会議に参加された際に制度の詳細などを説明して下さった。その他、リーガルサポートへ相談等状況により活用している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書・重要事項内は全て説明し、不安な事や問題は、解決へ向けての話し合いを行うよう努めているが、その後に生じる問題に対してもなるべく早急に対処できる様話し合う機会を作っている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の設置や面会されるご家族との会話の機会を作るとし、入居者との意見交換も大事にしているつもりだが、運営に反映出来ているかはわからない。	食べ物、服装、下着、対症療法的医薬品の使用などについて、日常的に意見や希望、疑問が寄せられているが、大きな苦情はない。家族の関心が乏しいことも理由の一つと考えられている。	家族から寄せられる些細な要望や疑問などもその場の対応で終わらせず、記録に残して業務の改善や大きな問題の防止などに役立てられるよう検討することを期待したい。
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時やユニット・合同・ケア会議等で介護職員と管理者間での意見交換は行っており、円滑な業務遂行に努め、管理者はその内容を代表者へ報告している。	各種会議の場で意見を述べる機会を設けており、日常業務の改善意見などは多数表明され、新入居者の受け入れ判断にも職員の意見が取り入れられている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の給与査定で職員評価を行い給与に反映されているが、給与水準は職員個々に思いは違うのも事実。その為にも努力や実績の評価を継続している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の参加要項を掲示、資格取得や研修参加に係る勤務調整をし、その他内部研修やケアプランのサービス提供の内容に沿い、介護力の向上を目指し、職員により工夫されたケアの指導を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所内(2ユニット)では合同行事や委員会、研修等での交流や協力体制はとれており、外部研修等で同業者と交流することはあるが、ネットワーク作りや相互訪問等の活動は出来ていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員それぞれがご本人に多くの言葉がけと生活のリズムを考慮し、安心して仲間に入れる様、中間的役割に徹するよう努力している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の生活歴等を支障の無い程度に伺い、出来るだけご家族に不安の無いよう援助することに努め、面会の際等には近況報告し会話を多くするよう心がけている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	慣れない環境でいかに早く安心した生活が送れるかを重要視し、必要な対応(受診、外出等)を出来る限り入居者やご家族が納得できる支援が出来るよう努力している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入居者になるべく対等な立場関係で、何でも言い合え、掃除・料理等入居者の得意分野や可能な事を共に行い、信頼できる人間関係を築けるよう努めている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には出来る限り多くの面会をお願いをし、職員だけでは補いきれない精神的な安定への協力をお願いしている。面会の際には近況報告等、職員との会話の機会も作るように努めている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係継続は殆どの入居者は難しく、新興宗教やリハビリ通院等での外出等は協力的に援助している。中には古い友人と言う方が訪ねて来られる事もある。	宗教団体の会合に先方からの迎いで参加し、友人が来訪して面会することもある。墓参り、馴染みの美容室利用は家族が同行している。昔住んでいた家の辺りを訪ねることもある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時には入居者同士でぶつかり合う事もあるが、職員も仲介しアクティビティ等への参加に声を掛け合い、交流出来る環境づくりをし、孤立させるような状況は無いよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	介護職員が直接係る事は殆ど無いが、管理者はご家族からの相談を受けたり、ご本人入院の場合は様子を伺いに行く等おこなっている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	大きく生活リズムが狂わない程度に入居者ペースの生活援助を心がけ、意向に近付けるよう努めている。が、入居者の真の希望を叶えることが出来ていないのは不安。	できるだけ言葉で語りかけて意向を訊ねるように心掛け、働きかけや提案に対する反応からも気持ちを読み取るようにしている。行動や表情から察することも重視している。過去の経歴を把握することを意向の理解の基本に置いている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際にはご家族にも協力して頂き、生活歴や趣味等を教えて頂き、ご本人へは傾聴を心がけ個人を尊重出来るよう努力している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り時にも入居者の詳細は報告され、記録しているが、身体能力の維持や向上については職員間での話し合いを基にケアプランに反映している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者を中心にケアプランの検討会議を定期的に行い、評価や新たな解決策や他に改善できる点は無いか等の話し合いをし、プランに反映させている。その際、可能な限りご家族やご本人に相談や説明も行っている。	居室担当者が計画作成に先立って本人と家族の意向を聴取り、担当している利用者の介護計画原案を作成する。これをケア会議にかけて、計画作成担当者や看護師の指導、アドバイスが加えられ、各関係者の意見やアイデアが反映される。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過表やケース記録・ケアチェックを重要とし、職員間の情報共有あつてのケアプランサービス提供・評価としている。しかし、万全では無く記録の詳細が不足していることも多々ある。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診希望や買い物外出に加え、季節に合わせた外出や行事等、日々の体調や状態の変化に合わせて柔軟に対応できる様取り組んでいるが、必ずしもニーズに万全に応えられている訳ではないのも事実。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望に応じ、外出の機会を設けたり、入居者へ情報を提供するなどし、多様な環境への参加を促しはしているが、難しい事も多々ある。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診や受診への対応を可能な限り行っており、往診の主治医との連携はうまく行っているが、病院により事業所で可能な対応が上手く噛み合わない事もあり、困惑する事がある。	かかりつけ医は本人及び家族の意向に沿って決められる。ホームの協力医は月2回往診に来訪する。それ以外の医療機関受診は基本的に家族同行であるが、事情によっては職員が同行する。家族同行の場合、家族を通じて医師との情報交換を密に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になる点は当社の看護師が24時間に対応してくれるので、直ぐに相談できる環境もあり支持も上げ、場合によっては往診先も受診対応の協力してくれるので、入居者や職員の不安軽減にはつながっていると思う。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	双方で情報を共有し、連携が可能な病院は、安心して相談や情報交換を行う事が出来ているが、相談員等が居られず、医療機関と介護施設の違いを理解してもらえず苦難に直面する事もある。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化や終末期における指針」は会社としてあるが、未だそのようなケースに直面した事は無く、その場面に至る前に入院されることが多い。	「重度化や終末期における指針」は文書として用意されているが、入居の時には口頭で説明することどまる。その時期が近づいた時に改めて話し合いや確認書の交換を行う予定である。可能な限り終末の看取りを行う体制は整っている。	「重度化や終末期における指針」の確認はできるだけ早い機会に、今後は入居の時時点で文書で取り交わすよう検討を期待したい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修で取り上げてはいるが、頻回では無いので事故発生時に実践できるか職員間で不安に思う声もあるので、今後頻度を上げて対処していく。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定での避難訓練は行っているが、年2回では不安という意見もあり、外部研修へ参加し内部研修に反映もさせているが、全職員が対応できる様、訓練回数を増やすと共に、町内会との共同訓練も予定していきたい。	夜間の火災を想定した避難訓練を消防署の参加・指導の下に年間2回実施している。非常用品の災害袋は用意されている。さらに習熟のため訓練回数を増やすこと、避難場所の確保、救急救命訓練なども検討中である。	町内会をはじめ地域住民との協力関係、訓練への参加、地震への備えなども早急実現するよう期待したい。
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの言葉遣いに注意し、入居者の言葉の意図を探り、個々を大切にしようと職員それぞれが心がけている。	丁寧語を前提としているが、利用者との関係作りのため反応しやすい言葉遣いで対等な会話になることもある。介護をするという目線での会話を避け、過去の経歴などを把握し、理解できる短い言葉で話すように努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し、出来る限りの支援が出来るよう心がけ、働きかけ、対応が出来るよう努力している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を叶えられるよう支援はしているが、集団生活の考慮や病状の問題等で沿えない事もある。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意見を取り入れて更衣したり、行事に合わせておしゃれな服装にするなどの支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	味や出来を評価して頂いたり、食事に興味を持って頂ける声掛け、調理や後片付けの協力をしていただいている。又、月2回程出前をとり、好みの物を食せる様楽しみの一環に繋げられる様にしている。	職員はカロリーを計算し栄養バランスにも注意して献立を作っている。誕生日に好きな料理を作り、月2回の出前時には選んでもらうなど、食事が楽しめるように工夫されている。利用者は能力に応じて、盛り付けや野菜の皮むき、食後の下膳などを行っている。職員はさり気なく声かけをしながら食事を共にしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表に記入し、食事分量には常に注意を払い、間食の配慮も行っている。入居者の機能に応じた食事形態で提供しなるべく美味しく食せるよう支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	体調や精神状態を考慮し、入居者自身の力で行って頂き、見守りや介助で補っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェックを行い、状況やパターンの見極めに役立て、入居者により排泄時間を考慮した誘導や、現在完全オムツ対応の方も自立へ向けたケアプラン作成をし、サービス提供を継続している。	温度版で全員の排泄をチェックして、時間間隔や利用者の動きを観察してトイレに誘導している。数名を除いて衛生用品を使用しているが、トイレでの排泄を習慣にして自立に向けて改善した例もある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜ジュースやヨーグルトの提供と、薬に頼らず済むよう、体操への参加にお誘いする等の努力をしている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本、入浴日の固定はあるが、状況により対応できるように努めている。入浴に拒否のある方には気分等を考慮し、日に係らずいろいろ声掛けや誘導を行う工夫をし、職員間で協力している。	いつでも入浴が可能な態勢を取り、曜日や時間は希望に沿って午後から入浴を実施している。基本的には一人週2回の入浴を支援しているが、3~4回入る利用者もいる。入浴を嫌がる時は言葉かけの工夫や入浴剤を使用し、曜日なども変更しながら対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者のペースに合わせた生活を基本とし、安眠に繋がるよう、日中帯の起床時間を長くする為の支援や、入居者個々の夜間行動の把握に努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者それぞれの持病を把握するとともに、薬剤情報を確認し、効能や副作用の理解に努め、症状の変化への配慮や誤薬防止に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者個々に合わせた支援が行えるよう、麻雀や散歩、買い物外出や嗜好品の用意などに努めているが、職員の状況次第では対応しきれない事もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>対応できるよう職員調整やご家族への連絡を行っているが、双方の都合等で出来ないこともある。また、買い物希望があるが入居者自身は「出たくない」等の返答も多く聞かれる。</p>	<p>夏場は天候を見て近くの公園まで毎日のように散歩し、週に4～5回出かける方もいる。両ユニット合同で花見、紅葉狩り、サクランボ狩りや外食などの行事を楽しんでいる。冬場も雪まつり見学や初詣、外食など、外気に触れられるように支援している。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入居者やご家族の希望に合わせお任せし、希望によりお小遣い帳を作成し支援に努めている。買い物外出希望には早急に対応できるよう調整を行う。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご家族都合が優先されるが、時間を考慮し電話が出来るよう支援している。入居者の中には携帯電話を保持し、常にご家族に連絡可能な方もいる。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホーム内各箇所の清掃手順書に基づき清掃し、汚れやすい場所はその都度清潔保持に努め、共同空間は入居者と共に季節に合わせた装飾をし、時間や状況により音楽の取り入れ等過ごしやすい環境作りに努めている。</p>	<p>居間兼食堂は明るく、適度な広さもあり、料理の匂いや対面キッチンで調理する職員を身近に感じながら利用者はゆったりと寛いでいる。壁には季節の装飾、日めくり、手作りの暦、献立表、行事の写真などが貼ってあり、明るい雰囲気となっている。水槽のコイに餌をやり、犬を飼うなど動物との交流で温かい暮らしの様子も伺える。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用空間内で独りになれる時間はあっても、空間は無い。レイアウトの変更や座席に考慮し、入居者個々が居心地の良い環境づくりには常に配慮するよう心がけている。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居の際にご家族や入居者に自由な部屋作りの提案をしている為、個性豊かな居室となっている。掃除や整頓の際にも入居者と話し合いながら行っている。</p>	<p>居室にはロッカーが取り付けられており、使い慣れたタンスなどの家具類、小物品、仏壇などが持ち込まれている。壁には家族や趣味の写真、職員からの誕生日カードを飾り、縫いぐるみや装飾品で賑やかな居室などもあり、その人らしい居室作りになっている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>生活全般において危険が伴わない限りで対応し、入居者個々の身体機能を維持や向上を目指し、ケアプランに反映させると共に、プラン外でも可能な事に支援できるよう努力している。</p>		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503882		
法人名	株式会社 ケアプロダクツ		
事業所名	グループホーム あじさい藤野		
所在地	札幌市南区藤野3条4丁目15-60		
自己評価作成日	平成23年3月15日	評価結果市町村受理日	平成23年4月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1階ユニット」に同じ

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170503882&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年3月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	何かの折に理念の理解・共有を行っており、理念に基づいた支援を実践につなげている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の方々との交流会や双方の行事への参加などを行い、入居者様が地域と繋がりながら生活できるよう、努めている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの相談があった際には、可能な範囲での対応を行っている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、主に入居者・職員情報、事故報告、近況報告を行っている。内容に対し、様々な意見やアドバイスをいただけており、出来る限りサービスへ反映させられるようにしている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	密な連絡は取れていないが、区の保護課とは入居者様に関わる事やその他の相談に乗って頂いている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯に関してはユニットの出入り口の施錠は行っているが、どういものが身体拘束にあたるかなどの研修は行っており、身体拘束をしないケアに努めている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待のあたる行為の研修は行っている。職員それぞれが虐待を見過ごさないよう注意を払い、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はあったが、研修としては行っていない為、理解は浅い。今後、必要に応じ支援できるよう学ぶ機会を持っていきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に、ご本人・ご家族様と面談し不安点・疑問点に対する説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望を表に表しやすい雰囲気づくりに心がけ、困難な方に関しても思いをくみ取るように努めている。他に、苦情箱の設置、重要事項説明書内に当事業所以外での苦情相談窓口の記載をしているが、運営に反映されているかは分からない。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議・合同会議を開催し、意見などを聞く機会を設けてはいるが、運営に関しての意見はほとんど出ない。意見や提案などがあった際には、代表者へ報告している。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の給与査定で、職員評価を行い給与に反映させてはいるが、給与水準は職員個々に、思いは違うのも事実。そのためにも努力や実績の評価を継続している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の参加要項を掲示、資格取得や研修参加に係る勤務調整をし、そのほか内部研修やケアプランのサービス内容に沿い、介護力の向上を目指し、職員により工夫されたケアの指導を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所内(2ユニット)では合同行事や委員会、研修等での交流や協力体制はとれており、外部研修等で同業者と交流することはあるが、ネットワーク作りや相互訪問等の活動はできていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、不安な部分や要望を聞き取り、出来る限り解消できるよう努め、ホームでの生活が始まった際には、ホームでの生活に少しでも早く慣れ、安心した生活が送れるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、不安な部分や要望を聞き取り、安心して利用して頂けるよう努め、利用が開始されてからは、近況報告などを行い、関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時には、ご本人やご家族様との面談を行う中で必要としている支援を見極め、必要に応じた支援が出来るよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	相手の立場に立ち、支えあう関係を築いていけるよう努めている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時や電話連絡時等、情報の交換・共有をしご家族様との関係を築きながら、共に支えていけるよう努めている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	直接的な支援はできていないが、面会があった際には、また気軽に面会に来られるような雰囲気作りや声掛けを行い、関係が途切れないよう努めている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の症状に差がある場合もあり、入居者様同士が自ら関わりあう事は少ないが、孤立しないように状況に応じて関係を取り持つようになっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、可能な範囲での相談や支援はしていきたい。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向は聞き取りのできる方には行い、聞き取りの難しい方に関しては日々の会話や行動などからくみ取り、本人本位での支援をしていけるよう検討をしている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からの聞き取りや、ご本人様との会話の中から把握できるよう努めているが、家族関係や認知症の症状によっては、詳細の把握はできない場合もある。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員それぞれが、日々のケアの中での観察や申し送り・会議等で現状把握・情報の共有を図っている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	通常3カ月に1度ケア会議を開催。職員間で意見交換し、ご本人・ご家族様の意向を伺い、反映させながらプランの作成・見直しを行っている。けがや入院などで状況の変化が著しい場合には、その都度変更を掛けていく。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の記入はもちろんの事、日々の申し送りや職員間での会話で情報の共有をし、介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	内容やホームの状況にもよるが、可能な限り取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	できるだけ把握に努め、地域での暮らしを楽しむことが出来るよう支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族様の希望があれば、以前からのかかりつけ医を利用して頂き、希望がない場合は提携先の病院の利用をして頂いている。提携先の病院に関しては、月2回の往診と急変時の早急な対応をして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は常に連絡が取れる体制を整えている為、その時に必要な対応等の指示を仰ぐことができる。指示に応じ経過観察や受診を行っている。また、提携先の病院でも緊急時の対応や相談に乗っていただけている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人への負担軽減の為にも早期退院できるよう、情報交換や相談を行っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の指針は会社としてあるが、現在までにそういった状況の方はおられなかった為、いまだ支援した事がない。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修として、応急手当や初期対応を学ぶ機会があったものの、実技訓練は行っていない為、身についてはいない。来年度は、内部研修に組み込んで行っていく予定。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練は行っているが、実践力が身に付くほど開催できておらず、いざという時に不安。今後は訓練の頻度を増やし、すべての職員が対応できるようにしていく。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に念頭に置き、言葉遣いや対応に仕方を心がけている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員がすべて決めてしまうのではなく、ご本人の希望や要望を伺うようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、出来る限りそれぞれの希望に沿った支援をするよう努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	限られている持ち物の中から、おしゃれが出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みやその時に食べたいもの等を聞き取り、出来る限り反映はさせて頂いている。食事は必ず一緒にしているが、準備や片付けが出来る方は一緒に行うようにしているが、困難な方が多く、職員が行っている事のほうが多い。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食量やバランスなどは医師との相談を行い決定し支援している。水分量は常に把握できるような体制にしている。一人ひとりに合わせた食事形態や習慣を把握し支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る限りご本人に行って頂き、十分に行えない場合には支援している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じトイレ誘導を行い、トイレでの排泄の習慣をつけられるように支援している。また、一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、自立に向け支援している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因等を理解し、各入居者様に合った、食事や飲み物、運動の工夫は行っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日の感覚などを持って頂くために曜日などは決めているが、体調や希望により変更は随時行っている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムに配慮しながら、ご本人の意思や希望、体調により休んで頂いている。夜間帯に関しては、安眠を妨害しないよう、光や音に配慮し巡回を行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すべての薬の目的や副作用、用法・用量は把握しきれないが、新たに増えた薬などは症状の変化に気づけるよう把握に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る限り張り合いや喜びのある生活をして頂けるよう努めているが、職員の状況によっては支援しきれないこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>希望があった際には、職員やご家族の状況により支援できない日もあるが、可能な限り支援している。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご本人の希望や力に応じて所持・使用される方もおられるが、大半の方はご家族様が管理している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望があれば行っているが、家庭の事情等により支援できない場合もある。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>掃除はもちろんの事、温度・湿度・換気などにも配慮し、居心地の良い空間づくりを心がけている。また、季節に合った作品を、レクリエーションで作成し装飾に使用したり、掲示をしている。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>建物の性質上、共用空間で一人になれたり、気の合う入居者様同士だけの空間を作ることは出来ないが、出来るだけ居心地の良い空間を作るよう努めている。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時等に、出来る限りご本人の使い慣れたものやなじみの物好みの物をご用意して頂くよう、ご家族には説明している。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内はバリアフリー・手すり完備。トイレや居室には標識・表札を張り分かりやすいよう工夫している。</p>		

目標達成計画

事業所名 グループホームあじさい藤野

作成日：平成 23年 4月 20日

市町村受理日：平成 23年 4月 25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	地域密着型サービスの意義を踏まえた内容が盛り込まれていない。	理念の中に「地域密着」となりえるような内容を取り入れる。	事業所内全職員で検討する機会を設け、意味を深く理解したうえでの内容を決定したい。	H23.5.31迄
2	4	運営推進会議への家族参加少ないのは、身寄りがない、家族関係が希薄など、それなりの困難な事情ではあるが、家族の参加を増やす為のもう一段の工夫が必要。	各回に家族が1名でも参加していただきたい。	家族参加が皆無ではないが、参加していただける家族も比較的固定化されているため、解消するためにも、日常的に面会に来られないご家族にもまず、ホームに来ていただくための行事企画を考案中。(家族交流会)	H23.4.1～ H24.3.31
3	10	家族から寄せられる些細な要望や疑問などもその場の対応で終わらせず、記録に残して業務の改善や大きな問題の防止などに役立てられるようにする。	家族との会話を記録できるファイルを作成する。	家族面会時など関わった職員や管理者が、職員それぞれで情報を共有できるためのファイルを作成し、その都度記録を残す。	H23.4.30迄
4	33	「重度化や終末期における指針」の確認はできるだけ早い機会に、今後は入居の時点で文書で取り交わすよう検討。	「重度化や終末期における指針」を契約時に確認。	契約時に「重度化や終末期における指針」の確認をすることとし、現入居者や家族とも機会を作っていく。	随時
5	35	避難訓練に町内会はじめ地域住民との協力で行ったことは無く、地域との協力関係での火災訓練や地震への備えなども早急に実現したい。	町内会、地域住民との避難訓練を開催。災害時対策としての備えを用意する。	町内会と相談をし、避難訓練に協力していただく。災害時の備えとして必要なものを検討し用意する。	町内会 合同訓練 H23.11 予定 備蓄用意 H23.5.31

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。